

大阪教育大学 環境報告書2023

Osaka Kyoiku University
Environmental Report 2023



1	学長挨拶	1
2	環境方針	2
	大阪教育大学環境報告書2023の作成にあたって	
3	環境マネジメント組織	3
4	大学概要	4
	大阪教育大学各キャンパス	5
	団地の所在地	6
	柏原キャンパスマップ	7
5	環境配慮実施計画（2022年度の実施計画、評価）	8
	環境配慮実施計画（2023年度の目標）	9
6	マテリアルバランス	10
7	環境負荷データ	11～13
8	環境マネジメント活動の推進	
	学内での取り組み	14
	大学生協での取り組み	15
9	第三者意見	16
	環境報告ガイドライン(2018年版)との対応一覧表	17

1. 学長挨拶

日本の教員養成大学の中では規模が大きい大阪教育大学に、近未来の日本を支える人材をはぐくみ、羽ばたかせるための教員の養成が求められています。

本学は令和4年3月9日に、「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成を先導し、教員養成の在り方自体を変革していくためのけん引役として、文部科学省により公募された「教員養成フラッグシップ大学」の指定4大学の一つに選ばれました。

新たな教職実践教材の開発や、カリキュラム弾力化のための新科目の導入、学部と大学院の一体的カリキュラム開発、教員育成指標と連動する研修プログラムの開発、教員育成の高度化をPDCAサイクルとして構想できるようにするための博士課程の設置、IR室のデータ分析に基づくカリキュラム開発、さらにはダイバーシティ教育の一環として、学生が深い学びのために個々に利用できる教科横断的な教科の開発などが重要です。ガバナンス改革の面では、導入を強化しつつある年俸制において、評価結果に基づく総金額設定の実質化、男女共同参画の観点からの女性教員比率の積極的な拡大を図る必要があります。

こうした背景のもと、天王寺キャンパスに教育委員会・学校現場・行政・産業界・大学等が、それぞれ抱える課題（弱み）や資源（強み）を一同に集積し、大きな成果を生み出す仕組み（教員等育成に係る地域連携プラットフォーム）の拠点として「みらい教育共創館」を設置し、教員の総合バックアップセンターとして、大阪から日本の教育を変えていく取組を進めています。

パリ協定に定める目標（世界全体の気温上昇を2℃より十分下回るよう、更に1.5℃までに制限する努力を継続）等を踏まえ令和3年5月26日に改正地球温暖化対策推進法が成立しました。同法では「環境の保全と経済及び社会の発展を統合的に推進しつつ、我が国における2050年までの脱炭素社会の実現を旨として、国民、国、地方公共団体、事業者、民間の団体等の密接な連携の下に行われなければならない。」とされており、今後、国や自治体、企業、個人が一体となって脱炭素化、地球温暖化対策を推進していくことになります。本学では環境方針の下、教員養成系大学として高い学識と豊かな教養をもち、環境問題に理解のある人材を育成します。

引き続き、本学の教育研究活動へのご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



国立大学法人大阪教育大学長

岡本 歳子

2. 環境方針

基本方針

大阪教育大学は、地球環境の保全が大きな問題であることを真摯に受け止め、教育研究及びあらゆる活動を通じて、地域を含めた良好なキャンパス環境の維持保全に努めます。

また、教員養成系大学として高い学識と豊かな教養をもち、環境問題に理解のある人材を育成します。このため、特に次の事項について推進して行きます。

1. 省エネルギー、廃棄物の抑制、資源の再利用、環境汚染防止等全ての環境負荷の低減に継続的に取り組みます。
2. 美しく豊かなキャンパス環境の実現に向けた緑化整備、環境美化等について、全ての大学構成員の参加によるプログラムを推進します。
3. 環境に関する法令を遵守し、さらに自主管理規程を制定し、大学の社会的責任を果たします。
4. この基本方針を達成するため、環境配慮目標を設定し、環境情報を提供するなど、全ての大学構成員により環境保全に取り組みます。
5. この方針は、BBS（電子掲示板）をもって全構成員に周知するとともに、本学WEBサイトを用いて広く社会に開示します。

大阪教育大学環境報告書2023の作成にあたって

作成方針

「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律（環境配慮促進法）」の施行により、大阪教育大学では、2006年度より環境報告書を作成、公表してきました。

大阪教育大学は2004年4月に法人化し、国立大学の自律的な運営が求められる中、省エネの取り組み、古紙のリサイクル等環境負荷削減に取り組んできましたが、なお一層の努力が必要であると考えています。

大阪教育大学環境報告書2023は、本学の教職員、学生のみならず、本学の卒業生、本学への入学を希望されている方々、保護者及び近隣住民等のステークホルダーに対して、2022年度の大阪教育大学の環境についての現状を報告するものとして作成しました。

報告書の対象範囲
大阪教育大学

報告書の対象期間
令和4年度（2022年4月～2023年3月）

環境配慮実施計画の方針
2022年度に達成した環境配慮実施計画を踏襲し、より環境負荷の低いキャンパスを目指す。

参照ガイドライン等

- 「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律」に基づく「環境報告書の記載事項」
- 環境省「環境報告書の記載事項等の手引き」
- 環境省「環境報告ガイドライン（2018年版）」

発行年月
2023年 9月

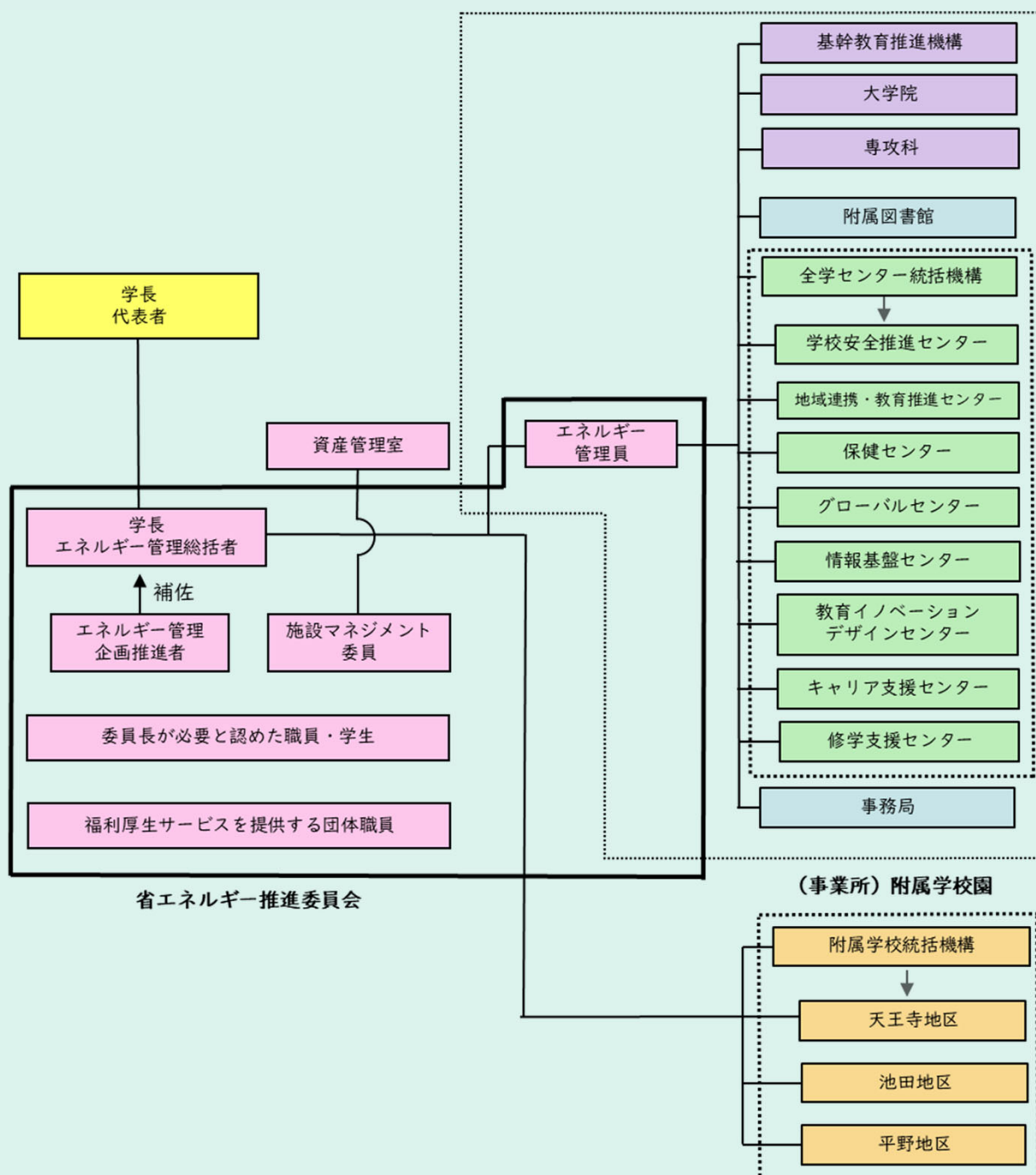
次回発行予定
2024年 9月

3. 環境マネジメント組織

本学は、省エネルギー及び温室効果ガス排出抑制を着実に効果的に推進するため、学長のもと下図のようなエネルギー管理体制組織及び温室効果ガス排出抑制推進体制を整備、運用しています。省エネルギー推進委員会には、本学の学生や生協職員にも入ってもらい、オール大教大で取り組んでいます。

大阪教育大学エネルギー管理組織及び温室効果ガス排出抑制推進体制

(事業所) 大学 (柏原・天王寺)

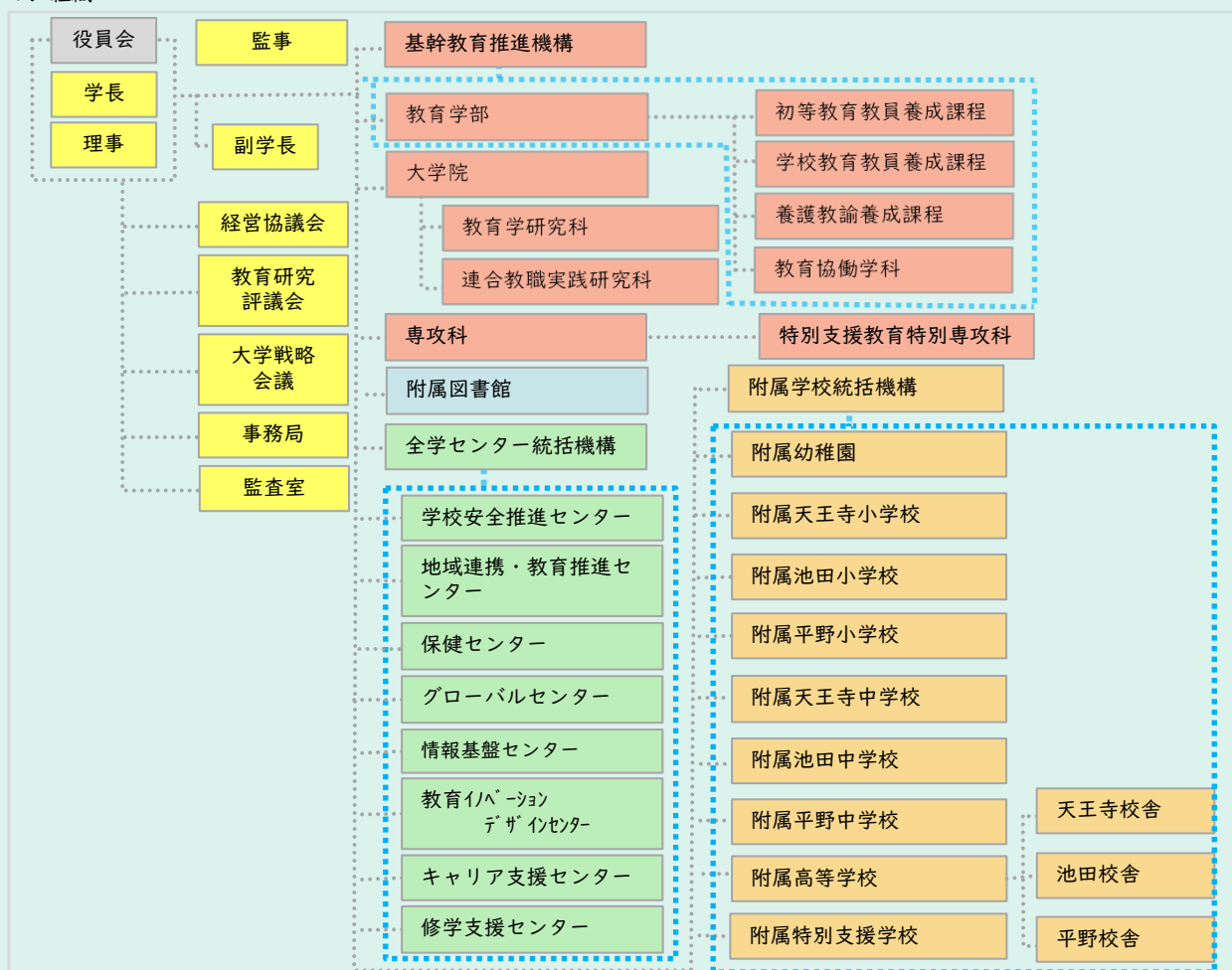


4. 大学概要

大阪教育大学は、1874年（明治7年）5月の教員伝習所設立以来、140年を超える歴史と伝統を有する我が国多数の教員養成大学です。

現在の大阪教育大学は、大阪府柏原市の金剛生駒紀泉国定公園内に約67万㎡のメインキャンパスを配置し、教員養成教育と教養教育を通じて有為な人材を輩出する一方、国際都市として交通アクセスはもとより、情報・産業の中核機能を有する大阪市内に天王寺キャンパスを擁しています。さらに、大阪市天王寺区、阿倍野区、平野区及び大阪府池田市の3地区に初等・中等教育並びに特別支援教育に対応した11の附属学校園を設置し、総合的な教育系大学をめざしています。

1. 組織



2. 職員数 (令和5年5月現在)

学長	1	教授	137
理事	5	准教授	72
監事	2	講師	31
合計	8	助教	0
		附属学校教員	257
		事務系職員	170

3. 学生数 外国人留学生は内数で記入 (令和5年5月現在)

■教育学部		第二部小学校教員養成	
教員養成課程・教養学科・教育協働学科		1年次入学	1
教員養成課程	2,459	3年次編入学	2
教養学科	8	合計	3
教育協働学科	1,473		
合計	3,940		

■大学院・専攻科	
教育学研究科	114
連合教職実践研究科	216
特別支援教育特別専攻科	30

大阪教育大学各キャンパス



柏原キャンパス



天王寺キャンパス

天王寺地区附属学校

①（附属天王寺小学校）

②（附属天王寺中学校）

（附属高等学校天王寺校舎）



平野地区附属学校

③附属平野中学校

附属高等学校平野校舎

④附属幼稚園

⑤附属平野小学校

（附属特別支援学校）



池田地区附属学校

⑥附属池田小学校

⑦附属池田中学校

⑧附属高等学校池田校舎

団地の所在地

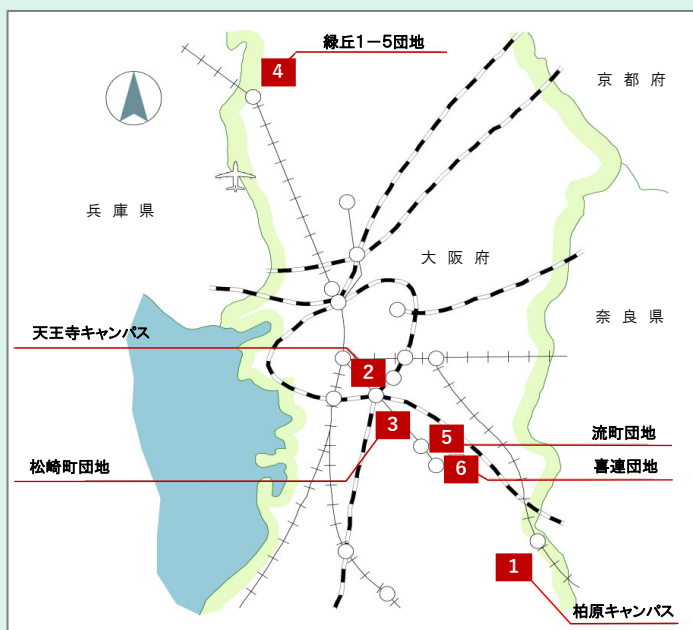
柏原地区	
1	柏原キャンパス（旭ヶ丘団地）
大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1	

天王寺地区	
2	天王寺キャンパス（南河堀町4団地）
大阪市天王寺区南河堀町4-88 附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎 大阪市天王寺区南河堀町4-88	

3	松崎町団地
附属天王寺小学校 大阪市阿倍野区松崎町1-2-45	

池田地区	
4	緑丘1-5団地
附属池田小学校	池田市緑丘1-5-2
附属池田中学校	池田市緑丘1-5-1
附属高等学校池田校舎	池田市緑丘1-5-1
学校安全推進センター	池田市緑丘1-2-10

平野地区			
5	流町団地	6	喜連団地
附属幼稚園	大阪市平野区流町2-1-79	附属特別支援学校	大阪市平野区喜連4-8-71
附属平野小学校	大阪市平野区流町1-6-41		
附属平野中学校	大阪市平野区流町2-1-24		
附属高等学校平野校舎	大阪市平野区流町2-1-24		



キャンパスの特徴

大阪教育大学には柏原キャンパスの他、天王寺キャンパス及び11の附属学校園が設置されています。大阪市内の天王寺地区及び平野地区、大阪府北部の池田地区に分かれて置かれ、いずれも大学との連携のもと、教育研究・教育実践・教育実習の場として重要な役割を果たすとともに、それぞれ地区ごとに連絡進学をはじめさまざまな相互連携をとり、下記のような特徴を持っています。

- 柏原キャンパス**
平成4年より天王寺、平野、池田より統合移転し、大学の本部及び教育学部（学校教育教員養成課程 養護教諭養成課程、教育協働学科）を置くキャンパスです。
- 天王寺地区**
教育学部（初等教育教員養成課程（昼間・夜間コース））、大学院（教育学研究科（修士課程）、連合教職実践研究科（教職大学院））と附属天王寺小学校、附属天王寺中学校、附属高等学校天王寺校舎を有するキャンパスで、「人間と科学の調和を拓くりテラシー教育」を研究テーマにしています。
- 池田地区**
附属池田小学校、附属池田中学校、附属高等学校池田校舎を有するキャンパスで、「社会とつながり、明日を切り拓く資質・能力の育成」を研究テーマにしています。
- 平野地区**
附属幼稚園、附属平野小学校、附属平野中学校、附属高等学校平野校舎、附属特別支援学校を有するキャンパスで、「生涯発達の視点に基づいた校種間連携型一貫教育」を研究テーマにしています。

柏原キャンパスマップ



1 共通講義棟 (A棟)

大小の講義室、実験教室、情報処理実習室、CALL (コンピュータ支援語学学習) 教室、ロッカールームの他に、外国語学習支援ルームやICT教育支援ルームがあります。



2 教育協働学科棟 (B棟)

主に教育協働学科の講義室、実習室、研究室などがあります。憩いの場である「レモンルーム」や壁一面のホワイトボードスペース「ガリレオボード」もあります。



3 教員養成課程棟 (C棟)

主に教員養成課程の講義室、実習室、研究室などがあります。入試課はC1棟1階にあります。憩いの場である「メロンルーム」や障がい学生修学支援ルームもあります。



4 附属図書館 (D棟)

約90万冊の資料が利用できる閲覧室やアクティブラーニングが可能なまなびのひろば・グループ学習室を設置しています。院生スタッフによる学習サポートも行っています。



5 情報基盤センター (E棟)

情報化の推進と情報システムの円滑な運用に、教育研究の発展に寄与することを目的としています。ネットワーク実習室、マルチメディア実習室、オープンLANスペース等があります。



6 美術棟 (F棟)

絵画室、デザイン室、書道室、講義室、研究室などがあります。



7 工房棟 (G棟)

彫刻室、金工室、立体室、木工室、窯工室、研究室等があります。



8 体育・スポーツ棟 (H棟)

実験実習室、講義室、セミナー室、研究室などがあります。



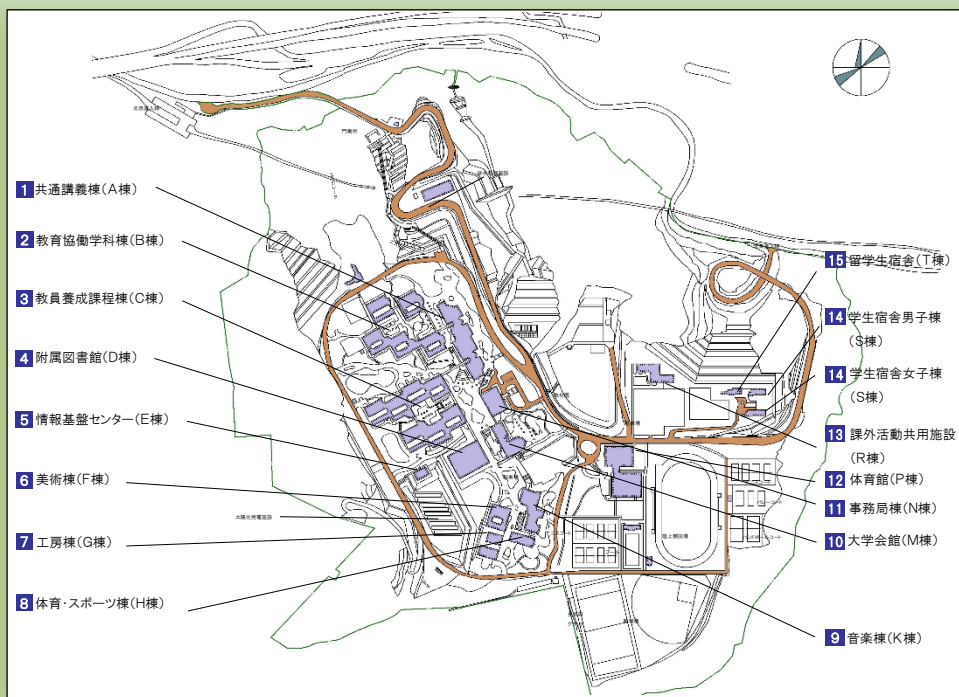
9 音楽棟 (K棟)

リハーサルホール、実習室、練習室、講義室、研究室などがあります。



10 大学会館 (M棟)

Dining TERRA、第二食堂、レストランFORET、喫茶 (SUN Cafe)、Shopアイリス (書籍購買) などがあり、学生の憩いの場となっています。



11 事務局棟 (N棟)

学務部のほか、総務部、学術部などがあります。



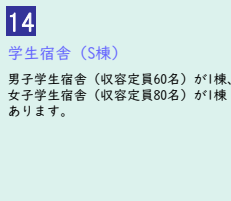
12 体育館 (P棟)

大メインアリーナ、サブアリーナ、器械運動場、第一武道場、第二武道場、ダンスルーム、トレーニングルーム等があります。



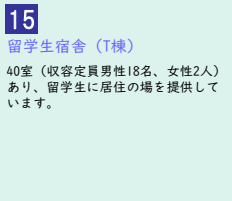
13 課外活動共用施設 (R棟)

体育系共用室、文化系共用室、合宿室などがあり、課外活動の拠点になっています。



14 学生宿舎 (S棟)

男子学生宿舎 (収容定員60名) が1棟、女子学生宿舎 (収容定員80名) が1棟あります。



15 留学生宿舎 (T棟)

40室 (収容定員男性18名、女性2人) あり、留学生に居住の場を提供しています。

5. 環境配慮実施計画 2022度の実施計画、評価

大阪教育大学の環境配慮の目標は、「省エネルギー・省資源の推進」「廃棄物の抑制」「環境汚染防止」「環境教育等の充実」「地域貢献」「学内美化」の項目を実施計画とし、進めていきます。

省エネルギー・省資源の推進 (自己評価の●は計画達成、▲は一部達成、×は未達成を示します。)

項 目	実 施 計 画	自己評価
エネルギー使用量・温室効果ガスの削減	■エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量を関係法令等に従い削減する。 ■旧フロンガスを使用する機器、老朽化した空調機器を更新する際は、高効率機器の採用を推進する。 ■フロン法に基づき、点検を行い、空調の劣化を未然に防ぐ。 ■教室等の照明器具の更新を行う際は、LED化、高効率器具等への更新し、省エネに配慮した機器の導入を推進する。 ■掲示物等で省エネの啓発を行う。	●
水使用量の削減	■掲示物等で節水の啓発を行う。 ■トイレ等の改修を行う際は、節水器具の導入を推進する。	●

廃棄物の抑制

一般廃棄物の排出抑制	■分別回収の徹底を強化する。 ■大学生協のランチボックス等をリサイクルする。また、プラスチックゴミは、削減するよう取り組む。 ■掲示によるマナー啓発活動の展開をする。 ■最近の海洋汚染を考慮して、プラスチック製品を脱プラスチック製品への使用に切り替えを行い、SDGsに取り組む。	●
用紙使用量の削減	■用紙の両面利用を推進し、使用量の削減を図る。 ■学内連絡や会議用資料の説明保存等を紙から電子記録媒体にする。	●
排水量の削減	■生活排水の中水利用を行い、排水量の削減を図る。	●

環境汚染防止

実験廃棄物等の管理	■学長統括の下、大阪教育大学実験廃棄物等管理委員会において適正管理する。	●
実験廃棄物の廃棄	■大阪教育大学実験廃棄物取扱規定に基づき、実験廃棄物等取扱責任者の指導監督の下、実験廃棄物を排出する実験廃棄物等取扱者が廃棄処分する。	●
実験用劇物等の管理	■購入者がその都度、薬品名・薬品番号・購入単位・購入年月日・受入量・使用者を受払簿に記載する。 ■大量の物は屋外の鍵付き保管倉庫に、少量の物は屋内実験室等の鍵付き保管庫に保管する。 ■受払簿は保管庫倉庫内と保管庫内に保管する。 ■受払簿は使用する毎に記載する。	●

環境教育等の充実

環境マインドの醸成	■キャンパスクリーン等を行い、自分達を取り巻く環境を自分達の手で綺麗にすることにより、環境マインドの醸成を図る。	●
-----------	--	---

地域貢献

森林体験学習	■新型コロナウイルスの感染拡大防止を図りつつ、柏原市との連携協定に基づく、近隣の小学生を対象とした森林体験学習を本学学生ボランティアにより実施する。	●
グリーンアドベンチャー (社団法人青少年交友協会)	■キャンパス内に設定されたコース上の植物の名前や生態を付設ボードのクイズを解きながら学習し、キャンパスを廻る野外活動で近隣地域の住民にも開放する。キャンパスの豊かな自然の中で自然に親しみ、植物をとらえて生命の尊さとそれを育む環境保全の大切さを体感させる。	●
その他	■新型コロナウイルスの感染拡大防止を図りつつ、星空を観察するという身近な方法で大気の流れを実感し、大気汚染問題に対して関心をもって頂くことを目的とした「星空の観察会」を実施する。 ■幼稚園の遠足及び国際フェスティバル等の場所を提供する。	●

学内美化

雑草の刈り取りと ゴミの一斉収集	■キャンパスクリーン週間を設け、教職員等による一斉雑草刈りとゴミの収集を行い、環境美化を図る。 - また、この週間で中以外でも道具を貸し出し、有志で環境美化が実施できる対応とする。	●
植栽の剪定	■期日を決め定期的に剪定や草刈の実施をする。	●

環境配慮実施計画 2023年度の目標

大阪教育大学の環境配慮の目標は、「省エネルギー・省資源の推進」「廃棄物の抑制・資源の再利用」「環境汚染防止」「環境教育等の充実」「地域貢献」「学内美化」の項目を実施計画とし、進めていきます。

省エネルギー・省資源の推進

項 目	実 施 計 画
エネルギー使用量・温室効果ガスの削減	■エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量を関係法令等に従い削減する。 ■旧フロンガスを使用する機器、老朽化した空調機器を更新する際は、高効率機器の採用を推進する。 ■フロン法に基づき、点検を行い、空調の劣化を未然に防ぐ。 ■教室等の照明器具の更新を行う際は、LED化、高効率器具等への更新し、省エネに配慮した機器の導入を推進する。 ■掲示物等で省エネの啓発を行う。
水使用量の節減	■掲示物等で節水の啓発を行う。 ■トイレ等の改修を行う際は、節水器具の導入を推進する。

廃棄物の抑制・資源の再利用

一般廃棄物の排出抑制	■分別回収の徹底を強化する。 ■大学生協のランチボックス等をリサイクルする。また、プラスチックゴミは、削減するよう取り組む。 ■掲示によるマナー啓発活動の展開をする。 ■最近の海洋汚染を考慮して、プラスチック製品を脱プラスチック製品への使用に切り替えを行い、SDGsに取り組む。
用紙使用量の削減	■用紙の両面利用を推進し、使用量の節減を図る。 ■学内連絡や会議用資料の説明保存等を紙から電子記録媒体にする。
排水量の削減	■生活排水の中水利用を行い、排水量の削減を図る。

環境汚染防止

実験廃棄物等の管理	■学長統括の下、大阪教育大学実験廃棄物等管理委員会において適正管理する。
実験廃棄物の廃棄	■大阪教育大学実験廃棄物取扱規定に基づき、実験廃棄物等取扱責任者の指導監督の下、実験廃棄物を排出する実験廃棄物取扱者が廃棄処分する。
実験用劇物等の管理	■購入者がその都度、薬品名・薬品番号・購入単位・購入年月日・受入量・使用者を受払簿に記載する。 ■大量の物は屋外の鍵付き保管倉庫に、少量の物は屋内実験室等の鍵付き保管庫に保管する。 ■受払簿は保管庫倉庫内と保管庫内に保管する。 ■受払簿は使用する毎に記載する。

環境教育等の充実

環境マインドの醸成	■キャンパスクリーン等を行い、自分達を取り巻く環境を自分達の手で綺麗にすることにより、環境マインドの醸成を図る。
-----------	--

地域貢献

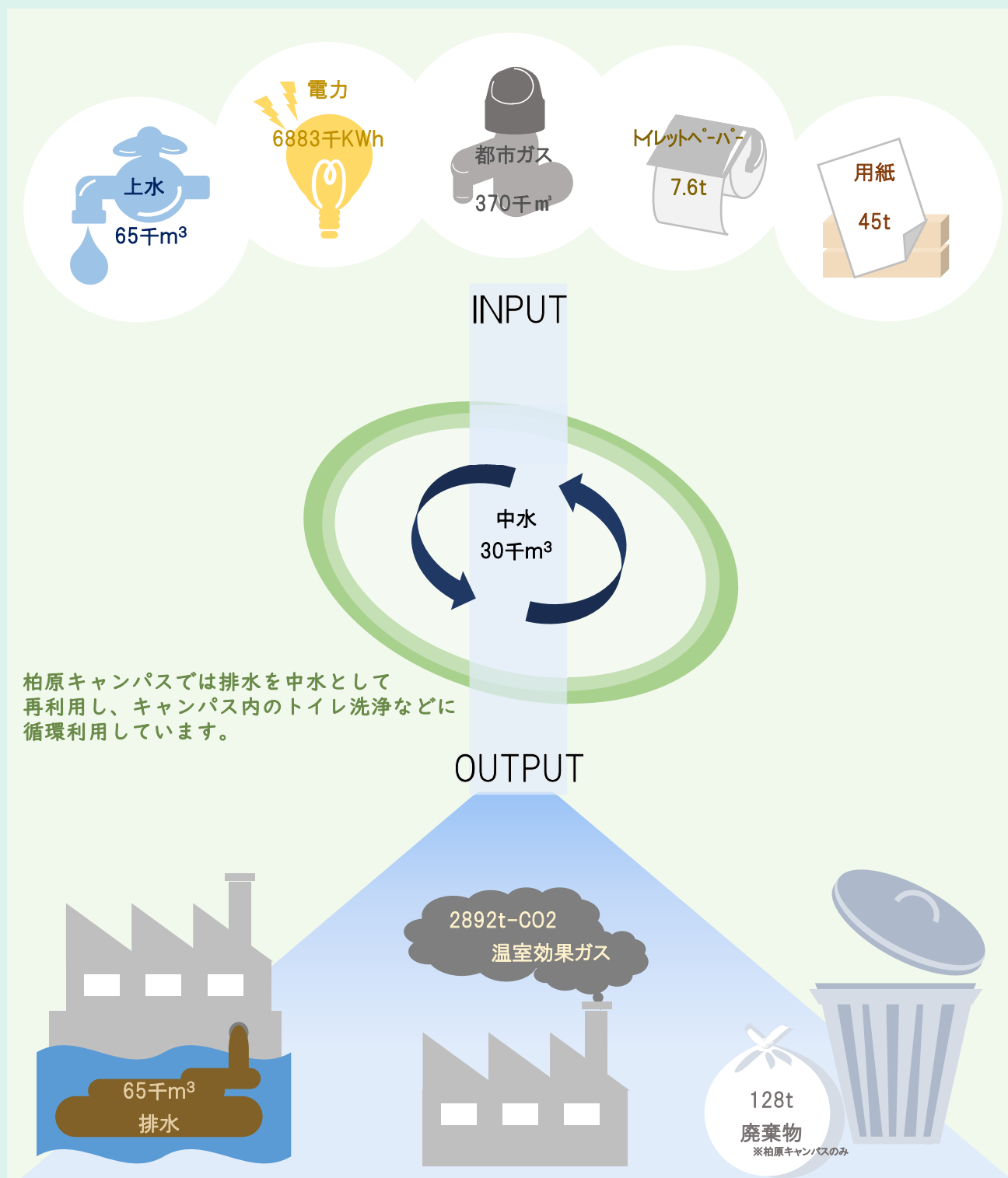
森林体験学習	■柏原市との連携協定に基づく、近隣の小学生を対象とした森林体験学習を本学学生ボランティアにより実施する。
グリーンアドベンチャー (社団法人青少年交友協会)	■キャンパス内に設定されたコース上の植物の名前や生態を付設ボードのクイズを解きながら学習し、キャンパスを廻る野外活動で近隣地域の住民にも開放する。キャンパスの豊かな自然の中で自然に親しみ、植物をとおりて生命の尊さとそれを育む環境保全の大切さを体感させる。
その他	■星空を観察するという身近な方法で大気の流れを実感し、大気汚染問題に対して関心をもって頂くことを目的とした「星空の観察会」を実施する。 ■幼稚園の遠足及び国際フェスティバル等の場所を提供する。

学内美化

雑草の刈り取りと ゴミの一斉収集	■キャンパスクリーン週間を設け、教職員等による一斉雑草刈りとゴミの収集を行い、環境美化を図る。 ■また、この週間で以外でも道具を貸し出し、有志で環境美化が実施できる対応とする。
植栽の剪定	■期日を決め定期的に剪定や草刈の実施をする。

6. マテリアルバランス

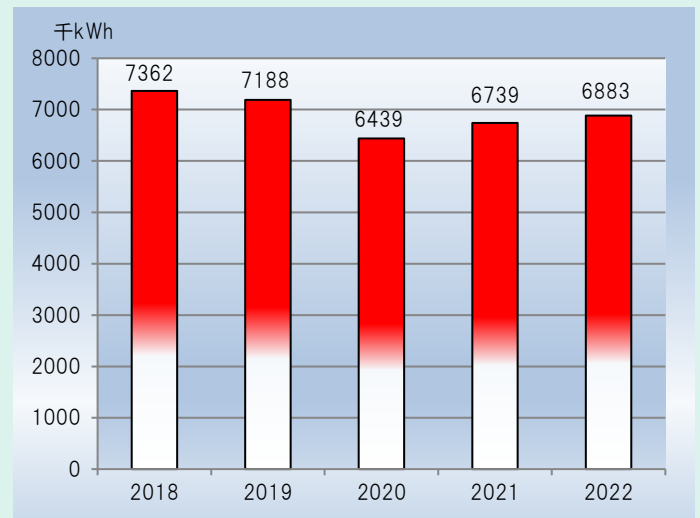
マテリアルバランスとは、大学の活動に伴う環境負荷の全体像で、大学の活動のために投入する資源等をINPUT、大学の活動結果排出する環境負荷をOUTPUTとして表したもので、2022年度の大阪教育のマテリアルバランスは下記のとおりです。



7. 環境負荷データ

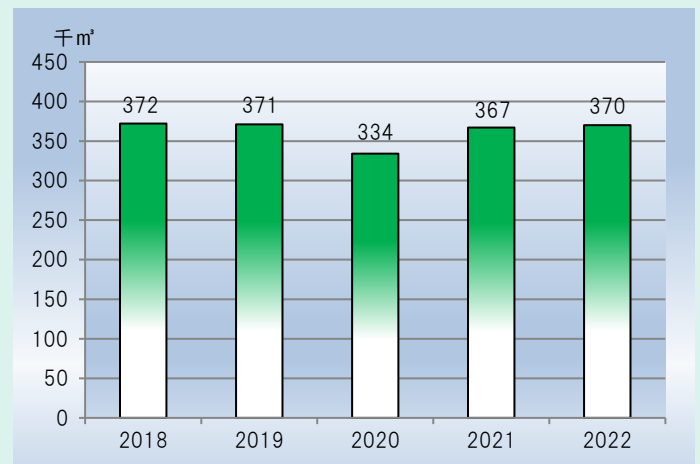
電力

- 電力使用量削減のため全学的な省エネ活動を推進しています。
- 2022年度は、2021年度に比べ約2.1%の使用量増加となりました。



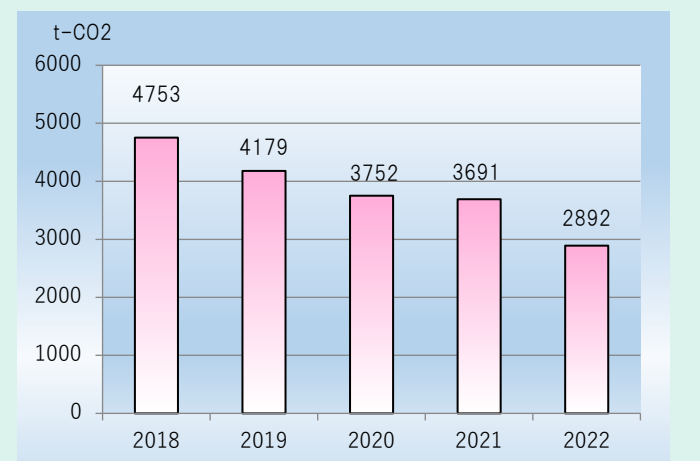
都市ガス

- ガス使用量削減について全学的な省エネ活動を推進しています。
- 2022年度は、空調負荷等の増加により2021年度に比べ0.8%の使用量増加となりました。



温室効果ガス

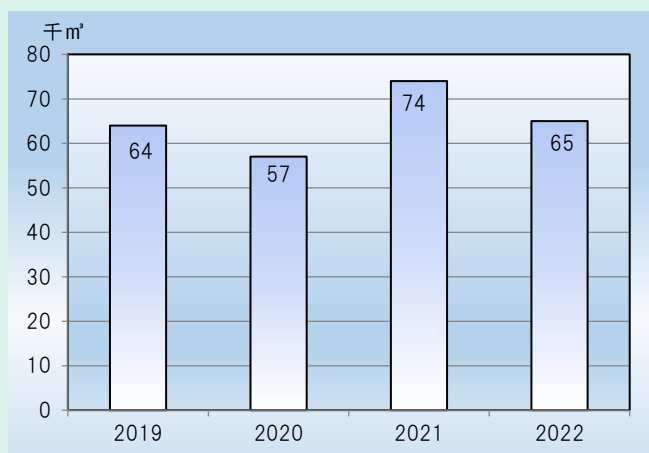
- 温室効果ガス排出量削減に努めています。
- 2022年度は、空調設備の更新による高効率化を行うと共に、年間を通しての省エネ活動として、電力の平準化や節電等を実行しています。
- 電力購入先が変更となった関係で、2021年度と比べ約23%の排出量削減となりました。



環境負荷データ

上水

- 節水対策により水の使用量削減に努めています。
- 2022年度は、2021年度に比べ約12%の削減となりました。



中水

- 中水は排水を再生処理してキャンパス内で再循環利用しています。
- 2022年度は2021年度に比べ約15%の使用量増加となりました。これは屋外配管の破損による漏水が要因と考えられます。

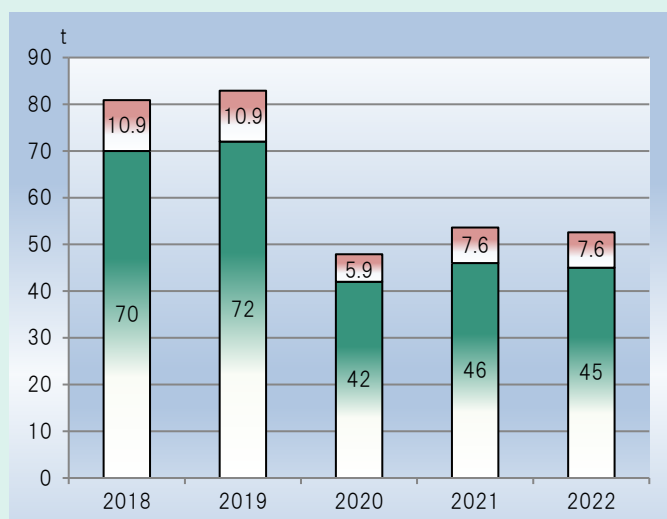


トイレットペーパー

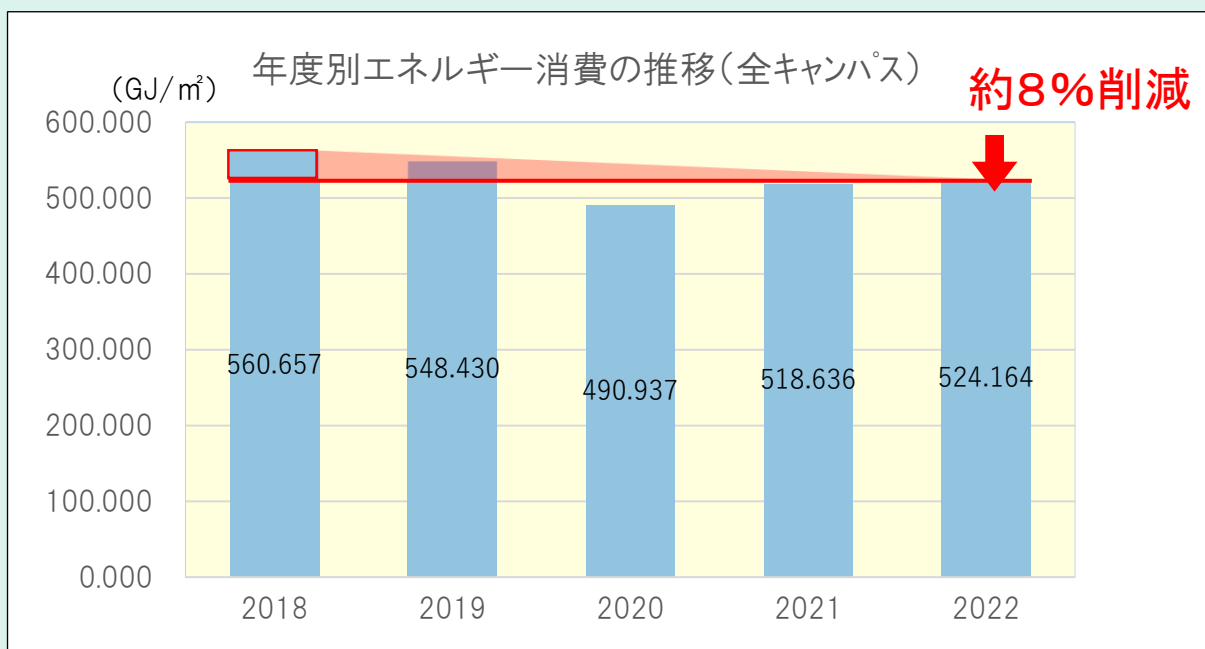
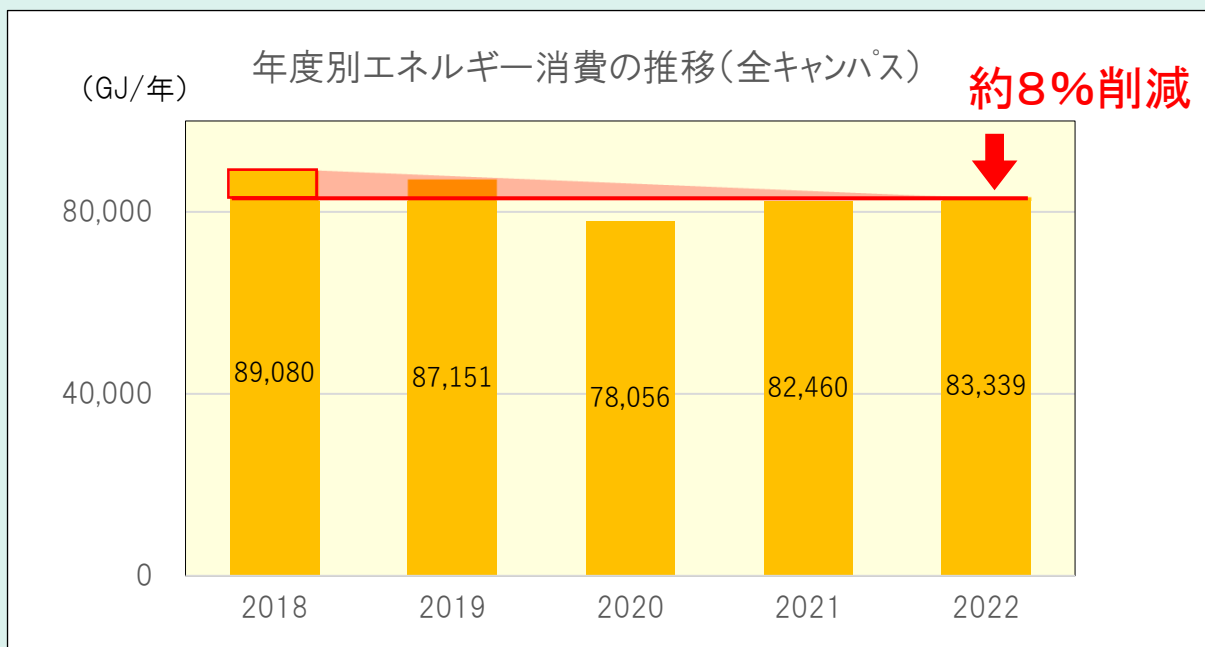
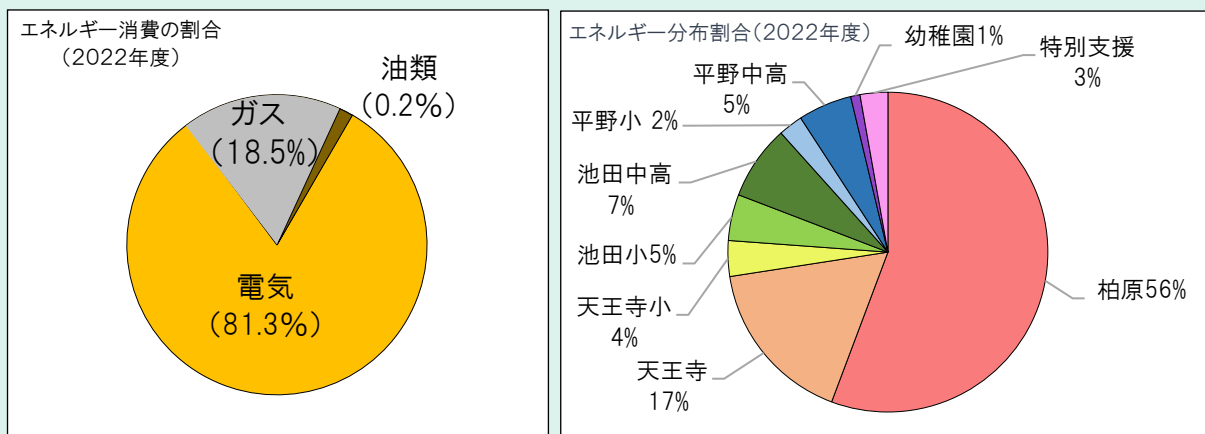
- トイレットペーパーについては、2022年度は、2021年度とほぼ同等の購入量となりました。

コピー用紙

- コピー用紙について、2022年度は2021年度とほぼ同量となっています



環境負荷データ



8. 環境マネジメント活動の推進 学内での取り組み

■ 花壇の整備

コロナ禍中に雑草で荒れ放題になってしまっていた、理科教育専攻卒業生の記念植樹がある築山（理科の花壇）の手入れを行い、周辺の花壇も整備して、季節ごとの花を楽しめるようにしています。

昨年冬の冬には何度か雪が降り、理科の花壇に雪が積もることがありました（写真1）。雪の日の寒さにも負けず、理科の花壇のシンボルであるしだれ桜が咲くころに淡いブルーのネモフィラが咲き始め、ツツジが咲くころには満開になりました（写真2）。

新緑の季節は、パステルカラーのシャーレーポピー（写真3）や、一斉にピンク色に咲くシレネ（写真4）が元気な気持ちにしてくれました。手入れの手間を考えると、雑草が生えにくくなるハーブを植える工夫もしました。思いがけず、きれいなハーブの花が咲き、香りとともに楽しませてくれました（写真5）。

夏には、久しぶりに多くの来場者があったオープンキャンパスに合わせるかのように、ミニヒマワリが満開となり、訪れた人にほほえみかけるようでした（写真6）。夏から秋にかけてはインパチェンスやコスモス、冬はノースポール、スイセン、早春はアネモネなどを楽しむことができます。

これからも花を楽しむ皆さんの癒しの場になるような理科の花壇を目指し、整備を行いたいと思います。



写真1 雪の日の理科の花壇



写真2 ネモフィラとツツジ



写真3 シャーレーポピー



写真4 シレネ



写真5 ハーブ（クリーピングタイム）



写真6 ミニヒマワリ

環境マネジメント活動の推進

大学生協での取り組み

大阪教育大学生協の省エネルギーに関する報告

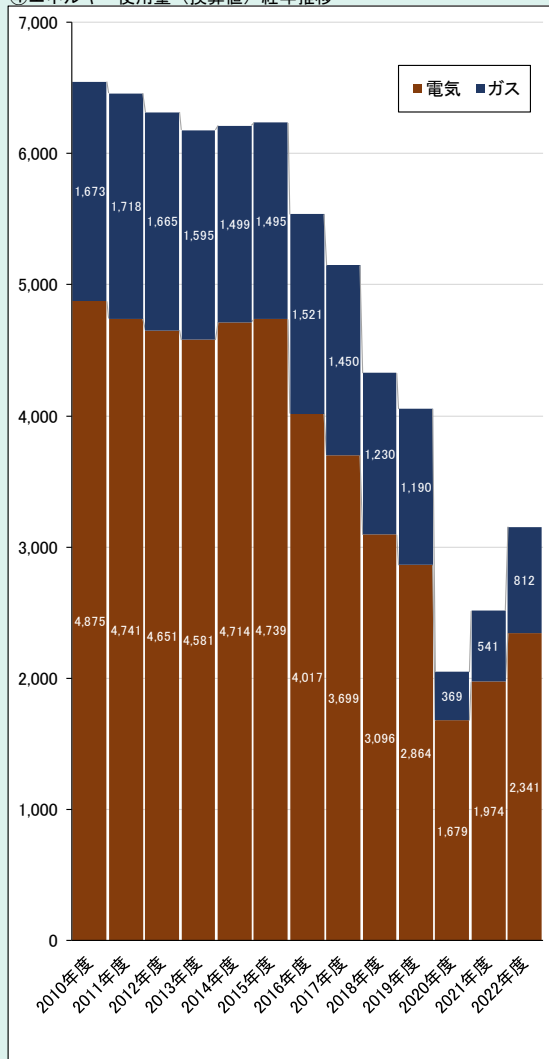
2010年度から2020年度までエネルギー使用量の削減は続いていますが、2021年度より増加に転じています。これはコロナウイルス感染拡大防止の為にオンライン授業導入による学内人口減少とそれに伴う店舗利用の減少・店舗営業活動の縮小等のピークが2020年度であった為です。2021年度からは徐々に学内人口が戻り、店舗営業活動も活性化してきたことから、エネルギー使用量も増加しています。但し、コロナ禍直前の2019年度よりは削減できています。

[エネルギー使用量推移]

①年間ガス使用量 (m³)

	購買	食堂	自販機	生協合計	エネルギー換算
2010年度	8,210	28,965	0	37,175	1,673
2011年度	6,794	31,388	0	38,182	1,718
2012年度	7,376	29,615	0	36,991	1,665
2013年度	6,703	28,749	0	35,452	1,595
2014年度	4,406	28,893	0	33,299	1,499
2015年度	3,976	29,254	0	33,230	1,495
2016年度	5,030	28,773	0	33,803	1,521
2017年度	5,310	26,904	0	32,214	1,450
2018年度	4,491	22,832	0	27,323	1,230
2019年度	4,662	21,779	0	26,441	1,190
2020年度	3,254	4,941	0	8,195	369
2021年度	3,543	8,479	0	12,022	541
2022年度	4,703	13,341	0	18,044	812

④エネルギー使用量（換算値）経年推移

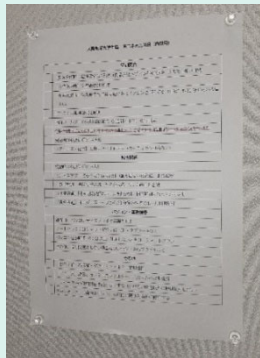


②年間電気使用量 (kwh)

	購買	食堂	自販機	生協合計	エネルギー換算
2010年度	131,900	305,000	62,600	499,500	4,875
2011年度	138,655	284,498	62,586	485,739	4,741
2012年度	144,631	278,333	53,629	476,593	4,651
2013年度	134,639	284,340	50,410	469,389	4,581
2014年度	147,209	287,748	48,078	483,035	4,714
2015年度	148,363	288,781	48,432	485,576	4,739
2016年度	128,158	237,856	45,565	411,579	4,017
2017年度	119,224	207,109	52,621	378,954	3,699
2018年度	119,473	196,807	896	317,176	3,096
2019年度	117,355	175,289	804	293,448	2,864
2020年度	90,620	81,225	145	171,990	1,679
2021年度	101,288	100,788	155	202,231	1,974
2022年度	110,823	128,869	170	239,862	2,341

③エネルギー換算合計

	エネルギー使用量	前年比	2010年比
2010年度	6,548	-	-
2011年度	6,459	▲1.36%	▲1.36%
2012年度	6,316	▲2.21%	▲3.54%
2013年度	6,177	▲2.21%	▲5.67%
2014年度	6,213	+0.59%	▲5.12%
2015年度	6,235	+0.35%	▲4.79%
2016年度	5,538	▲11.17%	▲15.42%
2017年度	5,148	▲7.04%	▲21.38%
2018年度	4,325	▲15.99%	▲33.95%
2019年度	4,054	▲6.27%	▲38.09%
2020年度	2,047	▲49.50%	▲68.73%
2021年度	2,515	+22.83%	▲61.60%
2022年度	3,153	+25.38%	▲51.85%



直接的なエネルギー使用量削減にはならないものの、店舗にてお渡ししているスプーン・フォーク等を環境配慮品に切り替えたり、必要有無を確認してからお渡しする等の対応を始めました。

引き続き、日常の店舗運営においてチェックリストによる省エネ活動を継続して行っています。

9. 第三者意見

千葉大学では、環境ISO学生委員会の学生が、内部監査などの業務や大学のサステナビリティレポート（環境報告書）の編集作成に携わっています。そのような私たちの立場から、大阪教育大学の環境報告書について第三者意見を述べさせていただきます。

まず環境配慮実施計画については、大阪教育大学が掲げている6つの目標ごとに記述され、読み手が理解しやすいようにまとめられていました。一方で、2023年度の環境配慮実施計画の内容を見ると、2022年度の実施計画とほとんど同じ内容となっています。2022年度においてすべての目標を達成していることを踏まえると、何か新しい取組を加えることで、継続的な改善が行われていることが伝わるのではないのでしょうか。

次にマテリアルバランスについて、イラストを用いて物質の投入量、排出量が示されており、視覚的に読み手に理解しやすくする工夫がなされていると感じました。ただ、主要な温室効果ガスの排出元や、廃棄物の内訳などの詳細な情報に欠けており、その点を示すとより多くの情報を読み手にわかりやすく伝えられると思います。また、イラストで示された排水の中水としての再利用のほかに用紙なども再利用されると思われます。貴大学で行われている3R等の取組がありましたら、それらをさらに掲載することも有効であると考えます。

次に環境負荷データについて、データのグラフは体裁が統一されており、非常に見やすく思います。データをキャンパスごとにまとめると、キャンパスごとの特性を踏まえた、より有効なデータの分析が出来るのではないかと考えました。また、環境配慮実施計画では、分別回収の徹底の強化やランチボックスのリサイクル等によって一般廃棄物の排出量を減らしているとありましたが、環境負荷データに一般廃棄物の排出量のデータが掲載されていません。一般廃棄物の排出量のグラフを掲載することで、計画の達成具合がより伝わりやすくなると思います。さらに、具体的な目標値等をグラフに記載することで、目標の達成度が可視化されると考えます。

次に環境マネジメント活動の推進のための取り組みについて、花壇の整備や大学生協でのエコライフの取り組み等の写真と共に紹介されており見やすく思います。一方で、環境マネジメント活動の取り組みの紹介が少なく感じました。環境配慮実施計画の6つの目標がありますので、それぞれの目標について取り組みを紹介するとより良い報告書になるのではないのでしょうか。また、エコライフとしてスプーン・フォークを環境配慮品に切り替える活動について、実際にそれらの環境配慮品がどれくらいの量利用されているのか、また年間で利用された量をデータとしてまとめると利用者のエコに対する意識を向上出来るだろうと考えます。さらに、学生が行っている取り組みを紹介することで大学特有の取り組みを広く周知できるのではないのでしょうか。

最後に、本報告書では長期的な環境目標についての記述はありませんでしたが、2050年のカーボンニュートラルに向けての取組など、長期的な目標を掲げることでより環境配慮に取り組みやすくなるのではないのでしょうか。数値として具体的に目標を定め、スケジュールを明確にすることで、より機能的かつ効果的に環境活動を実施できると思います。長期目標を定め、外部に向けて目標を発信することが貴大学のイメージアップにもつながると考えます。

本報告書をきっかけとして、貴大学の取り組みが広く知られるようになるとともに、貴大学がSDGsの達成に向けた国内外の取り組みをけん引されることを期待しております。

環境省 「環境報告ガイドライン（2018年版）」との対応一覧表

環境省「環境報告ガイドライン（2018年版）」	大阪教育大学 環境報告書2023
環境報告の基本的事項	－
1. 報告にあたっての基本的要件	－
（1）対象組織の範囲・対象期間	大阪教育大学環境報告書2023の作成にあたって
（2）対象範囲の捕捉率と対象期間の差異	大阪教育大学環境報告書2023の作成にあたって
（3）報告方針	大阪教育大学環境報告書2023の作成にあたって
（4）公表媒体の方針等	裏表紙
2. 経営責任者の緒言	学長挨拶
3. 環境報告の概要	－
（1）環境配慮経営等の概要	大学概要
（2）K P I の時系列一覧	環境マネジメント活動の推進 ・学内での取り組み
4. マテリアルバランス	マテリアルバランス
「環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況」を表す情報・指標	－
1. 環境配慮の方針、ビジョン及び事業戦略等	－
（1）環境配慮の方針	環境方針
（2）重要な課題、ビジョン及び事業戦略等	環境配慮実施計画
2. 組織体制及びガバナンスの状況	－
（1）環境配慮経営の組織体制等	環境マネジメント組織
（2）環境リスクマネジメント体制	環境マネジメント組織
（3）環境に関する規制等の遵守状況	環境マネジメント組織
3. ステークホルダーへの対応の状況	－
（1）ステークホルダーへの対応	環境マネジメント活動の推進 ・地域社会への取り組み
（2）環境に関する社会貢献活動等	環境マネジメント活動の推進 ・地域社会への取り組み 環境マネジメント活動の推進 ・学生の取り組み
4. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況	－
（2）グリーン購入・調達	－
（3）環境負荷低減に資する製品・サービス等	環境マネジメント活動の推進 ・環境教育・研究の取り組み ・学内での取り組み
（4）環境関連の新技術・研究開発	環境マネジメント活動の推進 ・環境教育・研究の取り組み ・学内での取り組み
（7）環境に配慮した廃棄物処理／リサイクル	環境マネジメント活動の推進 ・学内での取り組み
「事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況」を表す情報・指標	－
1. 資源・エネルギーの投入状況	－
（1）総エネルギー投入量及びその低減対策	環境負荷データ
（2）総物質投入量及びその低減対策	環境負荷データ
（3）水資源投入量及びその低減対策	環境負荷データ
2. 資源等の循環的利用の状況（事業エリア内）	環境マネジメント活動の推進 ・学内での取り組み
3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況	－
（2）温室効果ガスの排出量及びその低減対策	環境負荷データ
（3）総排水量及びその低減対策	環境負荷データ
（6）廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	環境負荷データ
4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	環境マネジメント活動の推進 ・環境保全活動の取り組み
「環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況」を表す情報・指標	－
1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況	－
2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況	環境マネジメント活動の推進 ・環境教育・研究の取り組み
その他の記載事項等	－
1. 後発事象等	－
2. 環境情報の第三者審査等	第三者意見



大阪教育大学は、この自然に囲まれたキャンパスの立地環境を活用し、生きた教材として、優れた環境人材の創出を目指します。本学の学生・教職員の環境への取り組みにご理解いただき、ご指導、ご支援をお願いいたします。

環境報告書ホームページ

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/joho/houtei/>



お問い合わせ先

国立大学法人 大阪教育大学 総務部施設課企画係

電 話 : 072 - 978 - 3333

F A X : 072 - 978 - 3345

M A I L : sisetuka@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

U R L : <http://osaka-kyoiku.ac.jp/>